

団体名		有限会社 武蔵野交流センター				
① 業 容 指 標 名	指標名	年間売上額			目標値	105,000千円
	過去の実績	平成26年度	平成27年度	平成28年度	(過去の実績についての説明)	
	(単位:千円)	120,237	109,442	104,762	生鮮品の端境期に生じたロスによる売上げの落ち込み分を取り返しきれなかった。	
	財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針(平成21年2月改正)の具体的な取組の該当項目			(1) 経営健全性の確保		
	設定理由等	小売業界全体として、昨年対比95%が基準と言われる厳しい経済状況の中、急激な売上げの回復を見込むことは困難であることから、経営を維持するために必要最低限の目標を設定した。 なお、本目標は平成29年5月26日開催の株主総会において承認されている。				
② 財 務 指 標 名	指標名	販売利益率			目標値	23%
	過去の実績	平成26年度	平成27年度	平成28年度	(過去の実績についての説明)	
	(単位:%)	23.5%	23.4%	22.3%	前年は生鮮品のロスが多く、加工品の売上げも伸び悩んだ。	
	財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針(平成21年2月改正)の具体的な取組の該当項目			(1) 経営健全性の確保		
	設定理由等	経営の立て直しに向けて黒字化を達成するためには、利益率23%が分岐点となっているため。				
③ 内 部 管 理	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・来店者数の増加及び売上げの回復につながるイベントを定期的に開催する。 ・新商品(生鮮品以外の物)の販売へ取り組む。 ・(可能な範囲での)配達の拡大や、ネットを活用しての受注等多様な販売方法を模索する。 				
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮品及び消費期限の短い加工品を値下げ品とせざるを得ない状況を少なくするため、従業員全員の意見を組み入れ、顧客のニーズに合わせた適正かつ適量な発注を心がける。 ・お取引先にもご協力頂き、生鮮品の六次産業化を目指す。 				
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・閑散期、繁忙期でメリハリの利いた適正な人員体制を取る。 ・複数の業務を1人がこなす事で、減った人員をカバーする。 ・規定の時間に捕われず、店の状況に合ったシフトを実施する。 				
	設定理由等	黒字化の達成及び経営の立て直しに向けて、もう一つの大きな柱が人件費の削減である。 外部コンサルタントから「従業員1人当たり売上高」が少ないことを指摘され、生産性の向上を図る必要があるため。				
	取組	財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針(平成21年2月改正)の具体的な取組の該当項目			(5) 人事・給与制度の見直し	
③ 内 部 管 理	指標名	人件費の効率化			目標値	(給与手当総額) 14,500千円
	過去の実績	平成26年度	平成27年度	平成28年度	(過去の実績についての説明)	
	(単位:千円)	15,978	15,256	15,234	残業代を削減する事には成功し、目標値はクリアできた。	
	財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針(平成21年2月改正)の具体的な取組の該当項目			(5) 人事・給与制度の見直し		
	設定理由等	黒字化の達成及び経営の立て直しに向けて、もう一つの大きな柱が人件費の削減である。 外部コンサルタントから「従業員1人当たり売上高」が少ないことを指摘され、生産性の向上を図る必要があるため。				